

ハワイ太平洋津波警報センターへの路・2007

高田善行*

1. はじめに

本文は、私の日頃の活動の中で、気象予報士の方と出会い、防災士の資格を取得する中で、スマトラ地震・インド洋大津波の悲劇を知りました。この悲劇を繰り返さないために、ハワイの環太平洋津波警報センターの活動を知りたいと思いました。実際に現地を訪れ、現場の専門家と交流しました。さらに、東北大学の今村文彦教授とも情報交換が出来ました。その記録をまとめたものです。

2. 路の始まり (前段)

私の好きな事、それはお天気や自然を感じる事です。

「空」を眺め、感じること・・・青空、流れ浮かぶ雲、爽やかな風、雨、虹、夜空の星・月の明かり

「海」を眺め、感じること・・・果てしない水平線、波音、海の色、海の香り、海の生き物達・・・

「森」を眺め、感じること・・・木々の波動、樹木、土、草・花の香り・味、力強さ、穏やかさ・・・

その為、気象や防災も学び、環境ボランティア (※0) で、人生を過ごしています。

自分の為、そして、未来の子供たちの為に、やらなければいけない事 (責務) が、防災・環境に関わる全ての人たちに有ります。

■ 近年、日本人は、感じて行動する事より、頭 (仮説・事例) で考え、その後、マニュアル化・規約化・ルール化し、行動するように私はセキュリティ管理者の仕事が

らに思えます。それは、とても大切で必要な一部ではありますが、しかし【聞き⇒指示・説明⇒行動】と【感じ⇒伝え⇒行動】では、違う未来 (結果) が待っていると私は思います。

災害においても「見」「観」二つの目を持ち、「聞」「聴」二つの耳を使う事は、車の両輪であり片輪では、何事にもおいても問題の根本的解決には至らないと、ビジネスの経験からも感じるのです。言葉を補足しますと・・・
見る：今、起っている事を正確に確認する
聞く：(needs) 耳を傾け、正確に知る
観る：事の変化の観察、洞察を知る (推測)
聴く：(wants) 深層心理を読み取る企業も同じであり、課題に対して結果が解りやすく相手にわかる「見」「聞」、例えば設備やシステムは、対費用効果が認可者に判り易いので優先されます。しかし、時間がかかり、不定形で見えにくい「観・聴」(啓蒙・教育) は優先を落としている傾向を感じます。

私の好きな自然の恵み、その反対面の自然の脅威。これを感じ、学び、行動し、伝えて行く・・・とかく災害が起きる、前、瞬間、後に、見え隠れする日本人の弱点 (強みの場合有りますが)。それは問題の脅威と脆弱性を仕組み、制度、組織で改善し、行動を説明している体質、これが日本防災における最大の脆弱性でないか？と私は疑問を持ちました。

※ 私の感じる防災の最大のポイント

- ① 検知し警報する側は、各地域に生きる人たちの、仕事、家族、文化、生活習慣、意識、教育、年齢を、本当に、理解し対応や備えを行なっているのであろうか？
- ② 連絡を受けた側は、何故、災害時警報を、軽んじ、逃げないのであろうか？また、何故、誤った退避行動による被害の死傷者の拡大を招くのであろうか？

* (株) ネットコクヨ

投稿紀行文 (2008 年 1 月)

※ 0

(ア) 環境ボランティア：『(財) トトロのふるさと財団 (<http://www.totoro.or.jp/>)』

・「トトロの森・狭山丘陵を守る日本版・ナショナルトラスト活動」



映画「となりのトトロ」宮崎駿監督 (左)



活動拠点 (真っ黒クロスケの家) お披露目会



狭山丘陵・トトロの森



トトロの森 5 号地の整備 (枯れた木の整理)

(イ) 環境ボランティア：『特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会 (<http://www.shu.or.jp/>)』主催

・「子どもワクワクプロジェクト」



子供達が手をつなぎ巨木の大きさを測る



森から楽しく学ぶこと



ドングリ集めて工作



参加者の方（左）、高田（右）

これから、お伝えする体験記は、あくまでも私、個人の主観であり、内容が適切なのか？は、まだ判りません。しかし、過去から見た未来（今日）を繰り返し、観て、聴く事で、また人の心理、PTSDを含めた人の脳の反応（※3）を人の言葉と行動から明確にし、一人でも多くの尊い命を救い、難解である心の病（絶望）や被災地域の復興の小さくても、一歩となるように「志（こころざし）」ます。

そして、この体験記は、できるだけ研究的な論文形式には、ならないように書きました。

※3 書籍『「海馬(かいば)」脳は疲れない』脳科学の池谷裕二氏と糸井重里氏著をお勧めします。

余談では有りますが、2007年3月14日、MLB（メジャーリーグ・ベース・ボール）、元・ニューヨーク・ヤンキース ジョー・トーリ監督は、松井秀樹選手の用具メンテナンスの姿勢に「マツイが道具を大切に扱っていることはもちろん知っているよ。彼ほど道具に対してリスペクトを持っている選手は、俺も見ることがない。でも、メジャーに限らず、はその道のプロとしてあっていくうえで、一番大切なこと。

「（※4）“Do the thing”，細かいことを疎かにしないこと」。マツイは“Little thing”をずっと続けているから、チームメートからも尊敬され、信頼されるのさ」と、指揮官は分析しています。私も2004年、IT仕事

で、MSU（マイクロソフト・ユニバーシティ：全世界のマイクロソフトのテクノロジーを構築・運用する、システム・エンジニア養成ビジネスの）講師を3年やっていました。その経験を振り返っても、全ての業界のプロには、ジョー・トーリ監督の言葉、“Do the thing”が当てはまると思いました。これを読まれた方で、もし何かに、気がつき、それが遅くても、伝わり、感じ、そこから何かが始まれば、嬉しく思います。それぞれが自ら、自分自身を変えてゆく意識改革の機会と感じて！

■ 山、海、近隣の住民の方、山や海でお仕事をされている方への、お願い！

ささいでも、津波、地震、その他の災害警報を知った方は、甘くみないで逃げてください。また避難、備えも学んでください。過去、津波警報を知りながらも「この前も来なかったから！」と軽んじた方は、必ず我が身や大切な家族に振りかかります。仕事、家族、家を失い、心が壊れ（PTSD）た、苦しみは、生涯、心に刻まれています。それは明日の貴方です。

3. 気象予報士・舞台「あしたは、あした」

多忙である気象予報士の方々が、共に舞台を行なう。お天気好きの自分が、この企画をインターネットで知った時、「どんな舞台をやるのであろう？」と興味と不思議を感じま

した。また、主催がお天気で知られている森田正光さんの会社、それは以前、私が気象予報士を目指し通っていた学校の斎藤 義雄 先生の会社でもあった為、舞台「あしたは、あした<1>」のチケットを購入しました。それは「斎藤先生と再会できるかもしれない、元気でられるだろうか？」との軽い気持ちもあり、実際、短い時間ですが再会できました。思っていた出会いが叶うと嬉しいものです。

尚、舞台は、あるテレビ局内の、気象予報の関係や、その場所に関わる警備や清掃の人たちを、予報士の方々が、コミカルで楽しく演じていた。またミーハーではありますが、

テレビでしかお会いできない美しい気象予報士の女性を近くでお会いできるのも嬉しかったです。そして、何よりも伝えたいテーマ(気象災害における人道)を感じ、舞台後、それぞれの出演者の方の努力が、自分の心に響きました。

そして凍結していたお天気(地球)の勉強を再開する事と共に、この舞台を行なう意味をもっと深く調べる事から、後の「ハワイ太平洋津波警報センターへの路」につながる、舞台「あしたは、あした」の動機と苦労談は、森田正光さんの想いのこもった言葉<2>をお読みください。

<1>舞台「あしたはあした」パンフレット、ポスター(下記)



日本初(たぶん世界初)!!
お天気キャスター(気象予報士)だけによるお天気芝居!
人生晴れたりもったりのウェザーエンターテインメント!

お天気や 第1回公演

あしたはあした

全編・原案・プロデュース
森田正光

作: 飯村弘一 演出: 三島かや 出演: 森田正光 小林進 真壁京子 森崎 根本美緒 平井史生 中嶋美年子 <VRB演> 水原真 山田玲奈

2005.11.5 [Sat.] ▶ 6 [Sun.]

前売 2,000円 当日 2,500円 (日時指定・全席指定) シアターVアカサカ 03-3583-6040

この舞台での売り上げは全て天災・津波被害への義援金として寄付されます。

主催: (株)ウェザーマップ 03-3234-1785 www.weathermap.co.jp/
後援: (株)ウェザーマップ 株式会社エス・エス・パブリッシング ©TBS/AMF 株式会社パイン 協力: 財団法人 気象情報支援センター 協賛: TBS 日本気象予報士会

チケットのご予約はこちらから! フォーチュンスター株式会社 03-5448-4022

<http://www.weathermap.co.jp/otenkiya/>

<2> 舞台「あしたは、あした」動機と苦労談、株式会社ウェザーマップ・森田正光氏のコメント

気象予報士とは・・・「天気予報を仕事として扱う資格を持つスペシャリスト」

現在日本には、5,000人以上の気象予報士が存在します(2005年3月現在)。しかし、その存在意義がピンチを迎えています。去年、

2004年の夏は歴史的な猛暑となりましたが、そのときテレビ局などに「なぜ天気予報が当たらないのか?」という苦情が殺到したのです。これだけ科学技術が発達したのに、毎日の天気予報が当たらないのはなぜなのか? 森田氏は考えました。「もう一度、気象予報士の仕事をみんなで見直してみようじゃないか!」それが、この芝居が始まった動機です。

この芝居で伝えたいことはふたつ。ひとつは「気象観測にたずさわる人たちの熱い情熱！」そしてもうひとつは「気象の知識は人々の命を救う！」ということです。日本の最高気温は山形の40.8度が有名ですが、1923年（大正12）9月2日未明、東京で47.3度という高温が観測されました。ただし、この気温は正式な記録としては残されていません。なぜなら、この高温は関東大震災の火災の熱で気温が上がったことによるものだからです。でもここで大切なことは、まわりじゅう火の海の中で、この記録を観測し続けた観測員がいたことです。

時代は変わっても、気象データはこのような情熱のもとに収集されています。そして気象予報士の仕事は晴れや雨を予想するだけではありません。気象の知識を、より多くの人に知ってもらうことも重要な役目です。たとえば去年の暮れにおきたスマトラ沖地震では多くの犠牲者が出ましたが、地震のあとに津波が来るという知識をもっと多くの人が持っていれば、被害はもっと少なくなったに違いありません。「気象にかかわる人の情熱と、気象の知識が人々の命を救う」このふたつのことを、舞台を通して物語として多くの人に伝えます。

補足：

主催：株式会社ウェザーマップ <http://www.weathermap.co.jp/>

■ 協賛：e-天気.net, 株式会社エクセル・パブリケーション, テルモ株式会社, バイン株式会社。

■ 協力：財団法人 気象業務支援センター, 後援 TBS 日本気象予報士会

■ CAST：森田 正光 TBS イブニング・ファイブ, 小林 豊 TBS アナウンサー, 真壁 京子 TBS きょう発プラス!, 平井 史生 日本テレビズームイン!!SUPER, 根本 美緒 TBS 朝ズバ!

VTR 出演 木原 実 日本テレビ ニュースプラス1, 山田 玲奈 TBS ニュース23, 藤森 涼子 日本テレビ ニュース朝いち430, 杉江 勇

次 日本テレビ ニュースダッシュ, 三ヶ尻 知子 JNN イブニング, 斎藤 義雄 JNN ニュースバード

■ 声の出演：

石井 和子・日本気象予報士会会長, 森 朗, 斎藤 恵理, 中嶋 美年子, 川端 彩香, 大野 治夫, 若菜 三千代, 元井 美貴, 美濃岡 洋子, 松並 健治, 芦原 瑞文, 加藤 祐子, 夏目 秘子, 井坂 綾, 長尾 美幸, 崎濱 綾子, 松田 朋子, 海老原 美代子, 加藤 順子, 岩瀬 常幸, 小山内 真紀

本文, 関係資料は, 2008年1月27日, ウェザーマップ広報室を通し, 株式会社ウェザーマップ社の使用許諾の上, 掲載いたしております。

4. 津波第一報とスリランカの幼稚園

スマトラ沖地震・津波の凄まじさを知り、更に深く地震・津波の発生時を調べてゆくと、一つの不思議にぶつかりました。それは地震・津波の第一通報者がアジアの経済国・日本でなく、ハワイ太平洋津波警報センターで有った事です。日本の気象機関の皆様は、もしかして、この緊急事態を知り早急な対応をされていたかもしれませんが、少なくともインターネットの掲示やテレビのニュースでは、「日本の気象／防災機関が災害地への伝達した！」という情報は見つけられませんでした。

自分は、アジア人＝日本人、アジアの経済国＝日本が、第一通報者で無い事に疑問を持ちました。また、写真で幼稚園児の瞳を観たとき、日本は被災国ではありませんが、アジア先進国として、無責任（何故、日本が津波の第一報を伝えなかったのか？）と感じ、それを確認する永い旅が始まりました。

5. 路を探して「気象予報の学び、防災の学び」

◆ 気象予報の学び

スマトラ沖地震・津波で【何故、日本が第一報告を伝えていないか？】を知る為、また、地球を学びなおす為、2006年12月2日から、



(1-a) 完成を待つ園児たち



(1-b) 工事中の予定地を見つめる園児たち



(1-c) 歓迎セレモニーでスピーチをする園長先生 (左端)



(2) 幼稚園建設現場 (下記)

(1-d) 2005 年 12 月 26 日・写真提供, 建設される幼稚園 (スリランカ南部・ヒッカドゥワ) について, 対象: 70 人の被災した園児 (3 ~ 5 歳), 3 人の先生, 運営: 平日の午前中に絵を描いたり, 歌を歌ったり, アルファベットを勉強したりする予定。

★本写真は, 2008 年 1 月 27 日, 株式会社ウェザーマップの広報室を経由し「CODE 海外災害援助市民センター <http://www.code-jp.org/>」使用許諾を確認した上, 掲載しております。

気象予報士の育成, 教育を目的として設立された。

(株) ウェザーマップの関連会社, 株式会社クリア (<http://www.wm-clear.co.jp/>) の気象予報士コースで学びなおし, また本題である「何故, 日本が第一報告を伝えていないか?」の質問を気象関係者の方に, 私的な感想で良いので, 聞いてみました。

その時の答えは「アメリカは気象・災害に対する予算をかけ, 日本は予算を削られている, 差ではないか?」との意見が有ります。

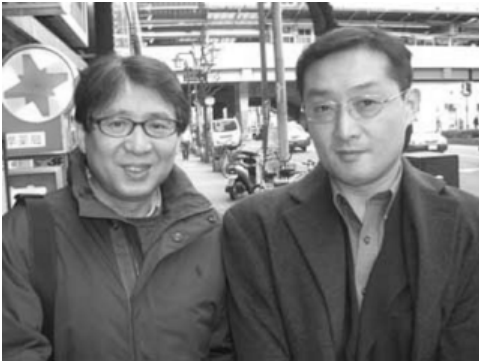
余談ですが気象学校 (クリア) で学習後, 試験で二問足りず, 気象予報士 (合格率 5%)

は不合格, 残念! 本題「何故, 日本が第一報告を伝えていないか?」を優先, 気象予報士試験は再凍結し, 優先順位を「防災士」資格に軌道修正しました。

◆ 防災の学び

2007 年 5 月 11 日から 13 日で, 防災士講習を自費 (6 万円 + 有給休暇 1 日と土日) で受けた。

これは, 災害時の事例の講習や, 災害時の避難場所の設計・運用のチームを組んでケーススタディーの体験をした。無論, 日本赤十字, 消防庁の蘇生 (Automated External Defibrilla-



(株式会社クリア 社長:森田 正光 様:左)

tor (「自動体外式除細動器」)) 等, 救護講習も必須である。

阪神淡路大震災による、約 6500 人の、尊
い命が失われた時、その救出・運用の 9 割り
は、家族、近隣住民、ボランティアであった
事から、「防災士」資格は、誕生した。

この講習で一番ショックだったのは、阪神淡路大震災での大半の死亡が家屋の倒壊による圧死。

(※5) つまり、人間がペシャンコに成った裸の死体写真です。

これは（※3 書籍「海馬（かいば）」より、
 脳の海馬への（一時）記憶ではなく、忘れら
 れない記憶（トラウマやマインド・コントロールで脳に書き込まれる、「扁桃体（へんとう
 たい）：感情の記憶」として、私の脳に書き
 込まれた。

写真は、残酷であり、亡くなられた親族の理解も必要であります。あえて地震・津波災害防止の絶対なる対策は、大切な家族の死の姿、職を失った現実、文化・家屋の倒壊の現実を見せる事で、我が事と受け止める事であると感じました。防災士試験は、合格！

しかし、気象予報士試験より合格率は高いにも関わらず、自分の脳（の扁桃体）に死体の写真は、焼きつき・・・申し訳ないが、気象予報士試験よりも事の重大さを感じました。そして、この講習で、津波災害の説明をした、防災情報機構 NPO 法人会長の伊藤和明様にスマトラ沖地震・津波で「何故、日本が第一報告を伝えていないか？」を質問した。答え

は「判らない」、しかし、この体験記で、その後、多大な助力をいただいた、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター・今村文彦 (Fumihiko Imamura) 教授 をご紹介いただく路にたどり着きました。

6. 今村先生の援助

東北大学の今村文彦教授とのメールのやりとりを以下にまとめる。

** 2007 年 9 月 24 日 高田から今村先生へ
 の初めてのメール*****
 *

東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター 津波工学研究分野教授 今村文彦 様

はじめまして、高田善行と申します。

突然のメールにて失礼いたします。

またこのメールアドレス先が、今村先生への
直接のメールで無い場合は、お手間をおかけ
しますが、今村先生へのメール転送を、願
いいたします。

実は、今村先生に、お伺いしたいことがあり、長文であり、初対面で恥ずかしながらメールいたしております。

【背景】

私は20年ほど、最新のITテクノロジーのビジネスを大手IT企業と大手メーカー（文具のコクヨのインターネット購買）のシステム・セキュリティの責任者／管理者としてまとめておりましたが、40歳を向かえ（今、43歳ですが）、気象・防災の「縁」で「防災士」を取得。また気象予報士、就学中の動機が、「スマトラ沖地震津波」の募金（幼稚園の復興資金あつめ）のイベント（気象予報士・森田様のウエザーマップ：舞台「あしたはあしたI」）でした。

そこで約 22 万人のアジアの方が、津波で亡くなったことを知り、ショックをうけ調べました。阪神淡路大震災の、尊い命（約 6500 人）を、はるかに上回る津波の凄さ。そして又、これを感知し伝えたのは、同じアジア人（日本）でなく、米国・ハワイ・オワ

・これは我が国でも同じです。警報システムはあっても、警報で避難できた方は1割に留まっております。この打開は大きなテーマです。受け取り側の認知や心理も考慮した、新しい情報の提供が必要であると思っております。是非、さらに質問やコメントなどありましたら、ご連絡ください。
以上よろしく願いいたします。今村

＊＊ 2007年9月25日 今村先生から高田への初めての回答メール ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

・その後、2007年10月末まで、今村先生との会話、助力に感謝いたします。
スマトラ沖地震・津波で「何故、日本が第一報告を伝えていないか？」の質問は、ここから第一報告をした当事者との直接コンタクトの路まで近づいてきた。

7. アメリカ国立海洋大気圏局・NOAA（ノア）へのアプローチ

アメリカ合衆国の気象機関の国立海洋大気圏局（こくりつ かいようたいきけんきょく、National Oceanic and Atmospheric Administration, 略称 NOAA）はアメリカ合衆国商務省の機関のひとつで、海洋と大気の状態を専門としている。気象に関する警報を出したり、海や空の状況を図表化にして、海洋、沿岸の資源の利用と保護についての指導をしたり、環境に関する理解をよりよくするために研究をしている。

NOAA US Dept of Commerce

National Oceanic and Atmospheric Administration

National Weather Service 1325 East West Highway Silver Spring, MD 20910

この機関を通して、2007年9月26日、今村先生から「webmaster@ptwc.noaa.gov にメールを出してみてください。今村の紹介で、施設を見学したいと述べてください。」とのメー

ルがあり、その後、私のアメリカ人、オーストラリア人、アメリカ滞在のITコンサルタント、英語講師の知人、アメリカの大学留学の体験者。全ての友人の力をかりて、毎週、NOAA への英文メールと、つたない英会話を補う Q&A 集を作成しました。

途中の NOAA との英文メールの会話は、長いやり取りの為、はぶきますが最終的には、太平洋津波警報センターより下記の友好的なメール届き嬉しく思います。

＊＊（高田のつたない英文訳ですのでお許しを） ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

To: ytakata@t3.rim.or.jp

Subject: Visit to PTWC

Hello Mr. Takata-san,

Our geophysicist, Victor Sardina, will be happy to host your visit. He asks if November 20th is good for you, perhaps about 9:30-10:00am? Dr. Sardina speaks fluent Japanese, which should be helpful in your conversations. Will you be renting a vehicle? We are about 40 mins. out of Honolulu. If you need directions, let me know. Looking forward to your visit and please let me know if there is anything else you need information about.

こんにちは、高田さん

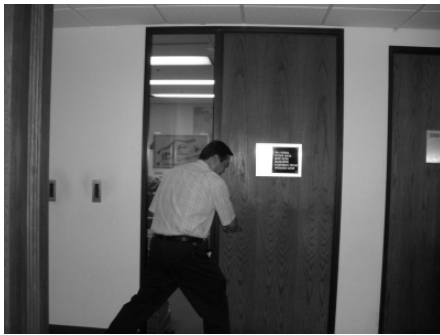
私達の、地球物理学者、ビクトリー・サーディナと貴方が接待するのが適切でしょう。彼は「もし11月20日で貴方が良いなら、できたら9:30-10:00am ごろ？」と尋ねています。Dr.サーディナは流暢な日本語を話すので、どちらにしても貴方の会話の助けになるでしょう。レンタカーをお使いになりますか？私達は、約40分。ホノルルの外れで、もし、道路情報など必要であればお伝えください。あなたの訪問を心待ちにしております。もし、何か他に必要なことがあれば、ご連絡ください。

＊＊（高田のつたない英文訳ですのでお許しを） ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

この後、今村先生に報告し、直ぐに現地との時間調整をし、オアフ行きの航空便と宿泊を予約した。

8. 路にたどり着いて

■ (International Tsunami Information Centre : ITIC) 国際津波情報センターの写真

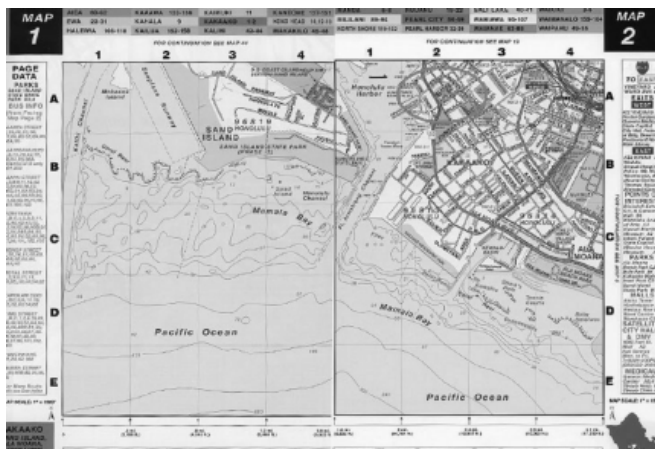


オフィス

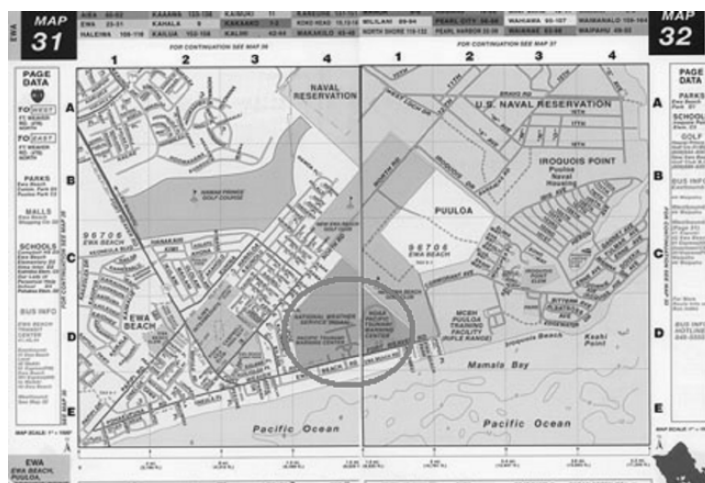


★雑談：トイレ使用にもセキュリティ・カードが必要なのに、納得であるが、カード誤認識したら、出入りできないと、ふと、思った。(笑)

【International Tsunami Information Centre: 国際津波情報センター】所在地
737 BISHOP St., SUITE2200 HONOLULU,HAWAII 96813 USA PH: <1>808 532 6424



【Pacific Tsunami Warning Center : PTWC】太平洋津波警報センター】所在地（エバ・ビーチ）
91-270 Fort Weaver Rd Ewa Beach, HI 96706-2928 USA Phone: 1-808-689-8207



◆ 国際的な津波予測を監督し、太平洋地域における津波警報の発表を行なっている。

● 太平洋津波警報センターの地球物理学者・ビクトリー・サーディ（Victor Sardina）博士と国際津波情報センター ブライアン・ヤナギ氏との会話

・ Geophysicist, Victor Sardina : 地球物理学者・ビクトリー・サーディナ博士

・ BRIAN S. YANAGI DISASTER MANAGEMENT SPECIALIST :
E-MAIL; BRIAN.YANAGI@NOAA.GOV
WWW.TSUNAMIWAVE.INFO
・ 国際津波情報センター ブライアン・ヤナギ氏（下記右）



（上記写真、左がサーディナ博士、右、高田）

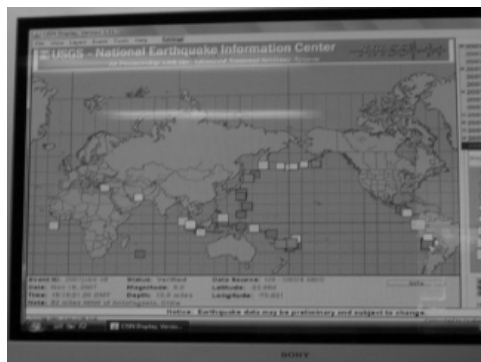
victor.sardina@noaa.gov



・ 以降、質問（Q）：高田善行、回答（A）：ビクトリー・サーディナ博士を主とさせていただきます。（ヤナギ氏へのインタビューは、今回は入れておりません）

Q1：インドスマトラの情報は何か、ハワイが連絡したのですか？

■ (Pacific Tsunami Warning Center : PTWC) 太平洋津波警報センターの写真 (1)



■ (Pacific Tsunami Warning Center : PTWC) 太平洋津波警報センターの写真 (2)



A1: まず警報センター設立背景として、もともと太平洋の国々で一緒に警報システムを作りたいという話があり、また地震は、チリや日本など多い為、太平洋での危険度が高いと認識していた。最初に、ハワイに研究所をつくったのは、1946年のヒロ（ハワイ）での津波が始まりです。アメリカでは、世界中の地震が太平洋のハワイに影響し、必ず連絡がくる事から、Geodetec（ジオテクス）サービスを受ける施設として、PTWCを180エカーズ（200坪ぐらい）のハワイに作りました。

そして、インドスマトラ（沖地震津波）は、昼の地震でした。

2004年最初、インド洋は、PTWCの管轄外だったのですが、検知した地震は、凄くではなく、もの凄く地震であったし、私も副所長も勤務中に知りました。ハワイでマグチュードを計算すると、M8.6と判り、どう対応するか考えました。

（※7）その結果「これは絶対に（警報）を出さなければいけない（人道的に）」もちろん大使館とか連絡して、どうやって伝えようか？考えました。しかし、その時のシステムが無かったのと、政治的な問題（例：インド、パキスタ

ン等の国交）で、連絡がなかなか取れませんでした。また（地震以前）政治的課題から、アジアの津波警報センターを、どこに設置するか決まっていませんでした。

Q2: 何故、日本は、大きな防災情報基地なのに、インドスマトラに危機の連絡をしなかったのか？

台風の被害やヒット率も高く、農家への対応は手厚い（アジア台風センター＝気象庁：JAM）が何故、スマトラ沖地震・津波の第一通報者としての対応が無かった（少なくとも報道されなかったか）と思いますか？

A2: (JAM) 日本の津波警報活動があまり無い事は、信じられないです。

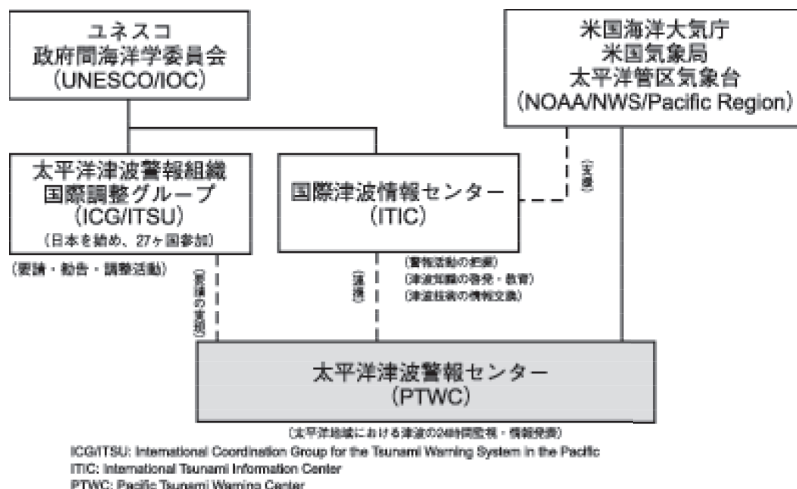
（※8）両氏、そして自分の防災対策の答えは、同じでした。それは防災教育の重要性！

津波警報の施設を完備しても避難しない現実を是正するのは、災害が、我がことと感じる、これは、※2から※5に関する事です。

また自分自身の疑問の答えでありました。

★ 尚、両氏の許可をえてインタビューのビデオを撮影させていただきました事に感謝します。

◆ 気象庁（JAM）： 防災守備範囲は、気象、地震、津波（下記体制）、火山。



またヤナギ氏には宿泊ホテルからセンター移動の助力に心から感謝します。
尚、膨大なインタビューの為、要点のみでの報告を、お許しください。

● サーディナ博士、ヤナギ様との会話を終えて・・・

PTWC（太平洋津波警報センター）での両氏との会話は、とても有意義でありました。

またサーディナ博士は、東京工業大学に留学しておられた事もあり、とても流暢な日本語でコミュニケーションがとれました。

サーディナ博士、ヤナギ氏との会話で印象に残った言葉は、やはり・・・

「なぜ米国の防災、太平洋の防災の為の機関である、このセンターが、何故！守備範囲外の、インドスマトラ沖地震の津波を感知し、自国の範囲を超えて、助けようとしたのですか？」の問いに、博士の答えはシンプルで・・・

「これは絶対に（警報）を出さなければいけない（人道的に）」

「人に危険が迫っているのを助ける事が、我々の使命である！」

「人の道に心が従っただけ」との事ですが、「ハワイ太平洋津波警報センターへの路」の答えで有ったことは、自分の嬉しい意味で予想外の答え（言葉）でありました。

★ 私から、行政・各研究にたずさわる皆様への願い！

2007年末・・・テレビを見ていて、ある番組で、脳神経外科医の上山博康先生が言っていた言葉が同じく心に残ります。

司会の方が「先生、治せない手術はない、そして全部やってゆけるって言う、あれ自分に対して、プレッシャーかけてますよね？」の質問に、上山博康先生は・・・「僕は昔、やっぱり何人も患者さんを悪くしました。」「自分を信頼してくれた患者が悪くなって行って、やっぱり逃げたくなった事があります。難しいのから逃避した方が楽だろう、でも患者は命を預けてよこす。命がけの信頼ほど大きいものはないだろう」「僕は東大を出ている、

偉い先生に特に言いたいんですけど、頭のいい人はね、私利私欲で、頭を使かわないで欲しいのです。【神様がくれたプレゼント】なんです。」「器用とか頭がよいとか足が速いとか・・・全部、そうなんですけど・・・それは【人のために役に立つために、その力を（神様が）くれている】というようにとっている・・・」

行政・各研究にたずさわる方々は、【神様がくれたプレゼント】をもらった方、才能のある方です。

その仕事を託された方です。お願いします。力のかして下さい。勇気を出して災害の悲惨さを、特に年配の大人の方に、伝えてください。発表でも説明ではなく、真実を伝える勇気で！

「死体（※9）」「避難所の苦しさ」「汚物の山」を写真で見せる事で、脳の扁桃体（へんとうたい（心の本質、トラウマの記憶）に焼付けなければ伝わりません。絶対に避けないでください。

説明での記憶は、時間と共に脳の海馬（一時的な記憶）から消えてしまいます。

但し、子供達には、刺激が強すぎるため、スマトラの学校でやっている「物語での読み聞かせ」が効果的であると思います。

再び、尊い命が一人でも救われる為にも、亡くなられたご家族の観るに耐えない“死体の悲酸さ”を遺族の方の了承を得ても、必ず教訓と言うかたちで、見せ、伝えてください。

私も含め、日本中の全ての気象・防災関係者の方に問います。この博士達の判断と行動と同じことを、今、日本の防災・気象の関係者できるでしょうか？十人十色で「あなたがやることでしょ」と自分の責任範囲のみの人が多い日本社会。全世界がつながる空と海に対し、国境線ではなく、人として、感じ、伝える人達が居ることに、人としても、すばらしい「志」・・・自国の範囲、規則、命令に、背いても、人を助ける勇気を持たれていますでしょうか？人を救う「勇気」と「志（こころざし）」は、有りますでしょうか？“義を見てせざるは、勇（ゆう）無き也”

孔子は【論語（為政篇）】で、「人の道と

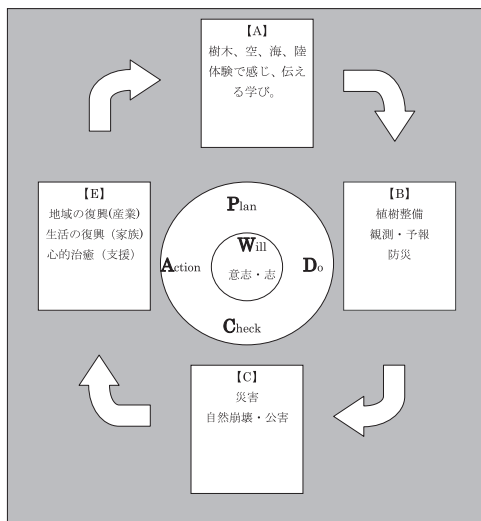
して当然行なうべきことを知りながら、これを実行しないのは、勇気がないというものである。」と伝えています。これを感じなければならぬ。見殺しは、人を殺したのと同じであると解いています。

サーディナ博士達は“勇（ゆう）”が自然と有った仕事のプロと感じました。

これが現時点で私が感じた、防災対策の最も大切な答えです。

9. 【最終章】 人為的、地球温暖化による災害是正と全体の循環

最後に、私は今後、今の自分が、感じ、伝え、できる力の範囲で自分が学んだことを残して行こうと思います。全ては、ワ・環、和、話、輪となって循環する事を自分の最後の仕事として目指します。



この旅の路で学んだポイントは、今は、3つと考えています。(私の行動の背景も初動背景も含め)

【1】 予防行動（教育、警報システム）

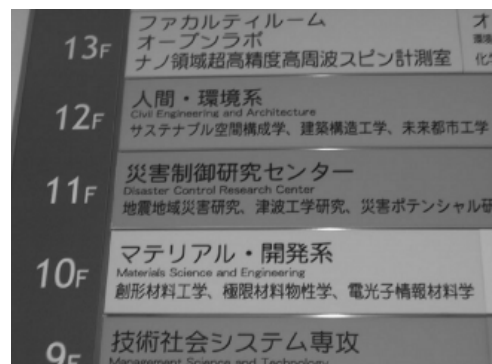
【2】 初期行動（判断（Dr.Sardina のケース）、感知、連絡、非難）

【3】 復興行動（仕事できるようになる、PTSD などの治療）

特に【1】の教育は、特に、NPO、NGO、行政、各国家機関等の協力が必要です。

皆さん、力を貸してください。

東北大学大学院工学研究科 附属災害制御研究センター 津波工学研究分野教授 今村文彦先生・・・そして多くの方の協力に感謝いたします。



(上記：2008 年 4 月 10 日 今村文彦先生と対面)